

て發表せられたり。同本校規則に規定せられたる願書及添付書類等
 のことを除き、志願者の心得べき重要な事項を記せば左の如し。

○豫備科並に製版科臨時寫眞科入學志願者心得摘要

入學願書提出期限(郵便に付するときは必ず書留郵便に依るべし)

本年三月一日より同月十五日迄とし手数料金參圓と共に期限内
 に本校に提出すべし

専門本科配當人員

日本畫科	廿二人
西洋畫科	三十人
彫刻科	十人
牙彫部	三人
木彫部	三人
塑造部	五人
圖案科	十人
金工科	五人
鑄造科	五人
漆工科	五人
製版科	九人
臨時寫眞科	八人

學科試驗科目(左記の科に限り中學卒業程度にて施行す)

一、圖案科第二部志願者

英語(英文和譯、書取) 歴史(日本)

數學(算術、代數、幾何、三角)

用器畫法(幾何畫法、投影畫法)

二、製版科及臨時寫眞科志願者

英語(英文和譯、書取) 物理學

化學 數學(算術、代數、幾何、三角)

用器畫法(幾何畫法、投影畫法)

實技試驗課目左表の通り(表略す)

西洋畫科(西洋畫)、^{〔彫刻〕}刻彫科(彫塑)を除き他は凡て自在畫を
 課す

自在畫は毛筆畫又は鉛筆畫の中受験者の選擇に任すべきに依り
 當該科の志願者は入學願書に附箋を以て毛筆畫又は鉛筆畫受験
 の旨を表示すべし

入學試驗施行期日 本年三月三十日より本校内に於て施行す

入學試驗日割發表期日 本年三月二十九日(水曜)正午迄本校美
 術部校舎内揭示場に發表すべきに依り入學志願者は總て本校に
 出頭して熟覽承知すべし

入學許可者人名發表期日 本年四月七、八日頃前項揭示場に發表
 す 但し官報掲載の日を以て本入學許可の日と知るべし

宿所其他届

一、地方より出京したる者は直ちに本校に出頭し其宿所を届出づ
 べし

二、入學志願者は總て(圖案科第二部及製版科寫眞科志願者を除
 く)本年三月二十九日迄に本校教務掛に就き入學後學習すべ

き外國語學届(英語、佛語の内)を爲すべし 但本届用紙は
 本校より下附す

○圖書師範科入學志願者心得摘要

當該學校長薦學期限其他

三月一日より同月十五日迄

手數料は之を免除す

選抜試験施行期日及試験場

選抜試験日割發表期日、入學許可者人名發表期日、地方出京者宿所届等は豫備科入學志願者に同し（外國語届は提出するに及はず）

選抜試験學科目（中學卒業程度）

英語（書取、翻譯）歴史（日本、東洋、西洋）

國語（書取、作文）自在畫（寫生、圖案）

用器畫法（幾何畫法全體、投影畫法初歩）身體檢査口述試験

修業年限及義務年限等

修業年限は三ヶ年とし在學中授業料は之を徴收せず

今回募集の生徒には本校規則第五十四條に依る學資を支給せず

卒業者は文部省令第二號（明治四十三年三月十日改正）東京美術學校圖畫師範科卒業生服務規則に依り二ヶ年間教育に關する

職務に従事する義務を有す

卒業後下附免狀 圖畫科、手工科、習字科とす 但習字科は成績

良好者に限る

○本校一覽の配付 最近調査にかゝる本校一覽は既に印刷濟なれば、二月下旬には例の通り各卒業生諸氏に配付せらるべし。今回は職員の名の側に住所を記し、卒業生の部も奉職者は奉職場所を、自營者は住所を録し、雅號をも注記し、卒業生の索引及改姓名一覽等をも添へたりといふ。而してまた此次ぎよりの一覽は毎年年内に

於て刊行せんとて、それ〴〵計畫中なりといふ。

○職員の内況 助教堀井政吉氏は本郷區駒込林町一九六番地へ轉居せらる。△囑託笠原留七氏は牛込區若宮町三十七番地へ轉居せらる。△囑託矢野道也氏は本年一月十二日その嚴父を喪はれたり。△

休職久米桂一郎氏は、一月廿五日米國より歸朝せらる。△教授岡田三郎助氏方へ此程電話開通せり 番號は芝六三三六番たり。

東京美術學校近事〔一五—一。T・五・四・三〇〕

○教授三氏の敍位 教授海野美盛氏は從五位に、同結城貞松氏は正七位に、何れも二月十二日を以て昇敍せられ、教授黒田清輝氏は三月三十一日を以て、正四位に敍せらる。

○小林助教の兼任 助教小林萬吾氏は三月二日付を以て、東京高等師範學校教授に兼任し、高等官七等に敍せらる。

○囑託二氏 本校日本畫科卒業生陸軍歩兵大尉正七位勲五等鈴川信一氏は、三月三十一日、體操授業を囑託せられ、教務掛主任兼庶務掛を命ぜられ、東京女子高等師範學校教授正五位勲五等下田次郎氏は、四月七日、圖畫師範科の教育學及修身授業を囑託せられたり。

○岩村教授の休職満期 休職教授男爵岩村透氏は、三月二十九日休職満期となれり。

○久米教授の復職 休職中なりし教授久米桂一郎氏は、三月三十一日復職を命ぜられたり。

○諸氏の出張 教授島田佳矣氏は、三月末より四月へ涉り、二週間の豫定を以て鹿兒島縣下へ出張せられ、囑託香取秀治郎氏は三月廿

五日より一週間奈良縣へ出張せられ、助教小場恒吉、囑託赤間連藏、助手小泉勝爾の三氏は、四月十二日より京都府奈良縣滋賀縣へ出張を命ぜらる。

○職員諸氏の近況 助手三浦柳三郎氏は府下荏原郡大井町字元芝六百八十一番地へ轉居せらる。▽助教千頭庸哉氏は府下豊多摩郡澁谷町上澁谷百十三番地(電芝四五六)へ引移らる。▽助手鈴木宮吉氏は、本郷區駒込千駄木町九六、第三清月館へ轉宿せらる。▽教授海野美盛氏は春季休業を利用し、九州地方へ旅行せらる。▽教授古宇田實、同神木健介兩氏は、春季休業中京阪地方へ旅行せられたり。

○第二十五回の卒業式 本校第二十五回の卒業證書授與式は、例年の如く三月二十九日の午後一時三十分より、本校講堂に於て行はれたり、式は例の通りにて、各所來賓、卒業生來賓、本校職員、新卒業生の著席するや、正木「直彦」學校長は式辭に引續きて、卒業生七十八人に順次證書を授與せられ、次に卒業生に對して告辭あり、尋で高田「早苗」文部大臣壇上に登られ、訓辭を朗讀せられ、卒業生總代鑄造科一井英一氏の答辭ありて、式を終り、それより來賓諸氏は別室に陳列したる卒業製作を觀覽し、職員卒業生諸氏は紀念の撮影をなしたり。その卒業姓名、文部大臣訓辭、卒業生答辭等左の如し。

卒業生姓名及卒業製作目録

日本畫科

解雪の頃 本科 鴻巢 善藏 福島平
夕月 同 鷹巢 豊治 佐賀平

落花	同	阿部 務	福島士
雜木林	同	桑田利三郎	香川平
春光、秋映	同	土岡 泉	福井平
青木に鶏	同	遠藤 誠	岩手士
秋 草	同	齋藤 赫夫	静岡平
夏の河岸	同	森 修	佐賀平
ヤシユダラ姫	選科	山田 是優	東京平
西洋畫科			
自畫肖像、窓ぎは	本科	梶原 貫五	福岡士
同、鏡の前	同	河井 清一	山口士
同、山茶花と子供	同	寺内萬次郎	大阪平
同、靴たび編める少女	同	中村 義夫	大阪士
同、少女	同	清水 良雄	東京平
同、晩秋	同	吉澤廉三郎	新潟平
同、冬	同	遠山 教圓	東京平
同、自然(三)	同	伊藤 ^(東) 哲	石川平
同、農夫の妻	同	幸福 光次	三重士
同、山上より	同	耳野卯三郎	大阪平
同、午後	本科	鶴見 守雄	栃木平
同、風景	本科	兼光 豊治	東京平
同、三人	同	宮地 茂	高知平
同、無題	同	名越 豊	岡山平
同、徒然	同	鈴木 保徳	東京平
同、子供と老人	同	椋樹 妙立	三重平
同、日のあたる室	同		

同、野良犬
同、秋
同、潜める春
同、木
同、かんな
同、小娘
同、平和の里
同、或る日
同、或る朝
同、女
同、夕ぐれ
同、無題

彫刻科
塑造部

荒寥
幻滅
處女
無限の道を昂すば
青年の聊
後患
悽愴
覺める迄
黎明

本科 雨田外太郎 福井平
同 清水彦太郎 大分平
同 大國貞藏 大阪平
同 本間久雄 新潟平
本科 久本信男 香川平
選科 筑紫求 茨城平
同 長谷部健次郎 富山平
同 黒田豊治 石川平
同 小野清生 大分平
同 龜岡崇 東京士

徒然
題未定

同 高木菊太郎 東京平
同 菅原勝次 岩手平

木彫部

大悟の途
閃きて
遠のく音

選科 田島龜彦 熊本平
同 長塚廣造 茨城平
同 松永義治 東京士

牙彫部

澄む音

選科 山下正次 茨城士

圖案科

第一部

工藝圖案各種
ステインドグラス圖案
絨毯圖案
卓子懸圖案
刺繡屏風圖案

本科 林威三 愛知平
同 原三郎 静岡平
同 小倉淳 石川士
同 大野爲次 富山平
同 清水吉臣 大阪士

第二部

圖書館
劇場及附屬裝飾彫塑
美術館

本科 前田健二郎 石川士
同 木下唯親 東京士
同 安間立雄 兵庫士

金工科

額。舍利
花瓶。島
額。泉

本科 町川惣太郎 香川士
同 堀和千代彦 茨城平
選科 齋藤龍太郎 東京平

鑄造科

鯉口 本科 一井 英一 徳島平
 大鼎 漆工科 同 波多野龜三郎 滋賀平

常薄蒔地花喰鳥蒔繪香盒 本科 生駒 弘 東京土
 秋の圖蒔繪圓硯箱 同 高野 重人 熊本士

圖畫師範科

神庭 亮三 鳥取平
 關口 曉三郎 東京平
 安藤 治作 岐阜平
 中島 信 岐阜平
 田村 美勇 山梨平
 小林 寛 山梨平
 豊山 廉 岡山平
 伊藤好太郎 山梨平
 三澤 佐助 山形平
 森 正男 東京士
 酒井 英吉 福島平
 水野 一夫 廣島平
 山田 武平 宮城士
 東谷 俊藏 三重平
 佐藤 佐 宮城士
 山口 俊雄 長崎士

卒業生科別人員
 科名 本科

選科

計

日本畫科	八	一	九
西洋畫科	二六	二	二八
塑造部	五	七	一二
彫刻科			
木彫部	一	三	三
牙彫部	一	一	一
圖案科			
第一部	五	一	五
第二部	三	一	三
金工科	二	一	三
鑄造科	二	一	二
漆工科	二	一	二
圖畫師範科	一六	一	一六
合 計	六九	一五	八四

卒業生科別前年比較

科名	本科の	同科上	本年の	同科上
日本畫科	一七	二	八	一
西洋畫科	一八	二	二六	二
塑造部	二	四	五	七
彫刻科				
木彫部	三	一	一	三
牙彫部	一	一	一	一
圖案科				
第一部	三	一	五	一
第二部	一	一	三	一
金工科	三	一	二	一
鑄造科	三	一	二	一

漆工科	一	二	一
師範科	一六	一	一六
合計	六六	一一	六九
			一五

文部大臣訓辭

東京美術學校卒業證書授與式ヲ舉グルニ方リ、一言之ヲ賀シテ卒業生諸子ノ前途ヲ祝福スルハ本大臣ノ欣ブ所ナリ。

惟フニ苟クモ家ヲ美術ニ成サント欲スモノハ、獨リ技術ノ人タルノミナラズ、亦併セテ人格ノ人タルヲ要ス。而モ技術ト謂ヒ人格ト謂フ、孰レモ多年ノ工夫鍛練ヲ經テ始メテ其ノ眞諦ニ達スルヲ得ベキモノ、諸子ノ眞ニ思ヲ覃ウシカラ竭スベキ所、蓋シ今日以後ニアリ。諸子夫レ自ラ傲メ、自ラ奮ヒ、刻苦勵精將來ニ大成スル所アレ。

若シ夫レ教育ノ任ニ當ルモノハ、公務ヲ奉ズルコト忠實ニ、生徒ヲ導クコト惻切ニ、獨リ技藝ノ師タルノミナラズ、人格徳操ニ於テモ亦衆生ニ範タランコトヲ期セヨ。

大正五年三月二十九日

文部大臣法學博士 高田 早苗

卒業生答辭

大正五年三月二十九日、春風駘蕩柳條ヲ梳リ、櫻花將ニ爛熳ノ好季ニ先ンジ、本校第二十五回卒業ノ盛典ヲ舉行セラル、ニ方リ、文部大臣閣下ヲ始メ、諸賢ノ御來臨ヲ忝ウシタルハ生等ノ光榮亦何物カ之ニ若カシヤ。

回顧スレバ生等業ヲ本校ニ受クルコト既ニ五星霜、其間學校長閣下ヲ始メ諸先生ノ御懇篤ナル御指導ニ依リ、茲ニ各其目的タル藝術ノ一端ヲ學ビ、廣ク其趨勢ヲ窺ヒ、進テ猶研鑽ノ力ヲ得タルハ是偏ニ其賜ニ外ナラズ。生等感佩措ク所ヲ知ラズ。今又文部大臣閣下ノ御訓辭ヲ賜ハリ、一同ノ責任益々廣大ナルニ鑒ミ、心ヲ向上ノ一路ニ取り、以テ大正聖代ノ斯界ニ貢獻

センコトヲ期ス。

若シ夫レ教育ニ從事セントスル者ハ、誠實其職ニ竭シ、且又方今社會ニ於ケル藝術ノ普及ニ力メ、國家生産富強ノ基ニ努力センコトヲ誓フ。不肖一同ニ代リ聊カ蕪辭ヲ以テ答辭トナス。

大正五年三月二十九日

東京美術學校第廿五回卒業生總代

一井 英一

○卒業製作の展覽 毎年の例により、卒業式の爲陳列せる卒業製作は、卒業式の翌三十日に於て、卒業生の父兄及有志に觀覽せしめらる。觀覽者は一千九百八十三人にして昨年の三倍強なりしといふ。

○新入學生の決定 本校各科生徒募集のことは曩に記したるが如くにして、入學試験は三月三十日に始まりて四月一日に終り、同月六日に至りて官報を以て、許可者の氏名を發表せられたり。其科別人名、人員比較等左の如し。

豫備科 (日本畫科)

富山平	小竹源一郎	岡山平	大山	深藏
佐賀平	池田幸太郎	静岡平	花村喜代藏	
大阪平	牧川 檜一	石川平	中村 久松	
群馬士	小野 虎雄	群馬平	畠山 錦成	
愛知平	平岩 三郎	神奈川士	長谷川龍三	
千葉平	石井喜三郎	石川平	橋 重吉	
富山平	永井 智雄	廣島士	山崎 良夫	
東京平	遠藤 教三	高知平	石田 吉次	
富山平	田上 三郎	新潟平	廣川省三郎	

岡山平 松島松太郎 静岡平 宮崎 賢次
 大分平 川野 廣好 愛知平 津田 要作
 鹿兒島士 岩切 勇 富山平 高澤哲之介
 東京士 榎本 親智 石川士 岩田 西介

同 (西洋畫科)

東京平 齋藤 保 秋田平 田口 省吾
 福岡平 津田 耕造 東京士 鈴木 亞夫
 愛知平 寺田 良作 愛知平 脇田 米一
 福岡平 川口 傳 熊本士 横山 繁行
 石川士 河南 拓 静岡平 横山 與作
 東京士 久保寺辰雄 宮城平 北野 和高
 福岡平 田中 繁吉 福岡平 出口 文雄
 愛知士 船橋 治彦 埼玉平 北爪 益雄
 愛知平 佐分 眞 佐賀士 横尾 新
 岡山平 片岡 銀藏 大分平 窪田 照三
 東京士 市川 越夫 埼玉平 岡村 浩一
 大阪平 伊原宇三郎 山梨平 角田 祐吉
 山形士 上泉 二郎 群馬平 牧島 要一
 京都士 服部不二彦 大阪平 柏原 安治
 長崎士 石河 光哉 高知士 畑山 俊夫
 東京平 川村 一郎 埼玉平 内田 了爾
 廣島平 藤原 覺一 埼玉平 明石 眞三
 鳥取平 前田 寛治

同 (彫刻科塑造部)

福岡平 中牟田三治郎 長崎平 小田 光章
 福岡平 橋爪 英夫 山梨平 中村 甲藏
 長野士 齋藤 六郎 東京平 宇敷 次郎
 大阪平 松本 銳次

同 (木彫部)

新潟平 羽下 修三

同 (圖案科第一部)

東京士 上山 藹 京都平 池本 治之
 東京平 小川森太郎 宮崎士 綾部 謙吉
 香川平 田村 左久 東京士 徳江 重武
 京都士 田中 俊 大阪士 泉川 昇
 東京士 片岡 豊 東京士 大坪 重周

同 (同科第二部)

新潟平 玉木修一郎 東京平 水谷 武彦
 長崎士 諫早 幹 石川平 高麗 建城

同 (金工科)

東京平 小宮 新吉 富山平 松村 治吉
 香川平 黒木 爲義 香川士 中村 要三
 東京平 池田 康次

同 (鑄造科)

熊本士 内田 培根 大阪平 木田 梧樓
 石川平 萩原 信義 三重平 山川 武雄
 青森士 蒔田三千藏

同 (漆工科)

群馬平 近藤 將照 東京華 溝口 三郎
 岡山平 廣幡 武人 大阪平 津川 末吉

製版科第一年級

茨城平 風見通之助 東京平 西堀 定夫
 島根士 生松 靜夫 長野士 小林 慶次
 福岡士 島井 武雄 東京平 今井 直一
 東京平 間野 義貴 三重士 金丸厚三郎
 東京士 長崎 晋

臨時寫真科第一年級

群馬平 萩原 退藏 新潟平 高橋 環
 鹿兒島平 鬼塚 榮 東京平 伊藤 武
 宮城平 荻原 義彦 東京平 辻 一郎
 山形平 山口 勇

圖畫師範科第一年級

愛知平 伊藤 武夫 山口平 澤井 森光
 埼玉平 卜澤 廣 山形平 佐藤 湊
 福島士 水谷 英一 静岡平 松岡圭三郎
 三重平 木田 勝良 大分平 池邊 一夫
 大阪士 淺井 重次 富山平 杉山 司七
 廣島平 上貞 久三 奈良平 向井 正一
 静岡平 前田 伊作 埼玉平 中村 秀三
 佐賀平 山下 一雄 新潟平 高野 次郎
 宮城平 近藤 廣記 佐賀平 染川 治次
 長野平 木村 實 山形平 内藤 秀因

製版選科第一年級
 東京士 古阪 正勝

備考 以上の中製造部の宇敷松本兩氏は、四月八日入學を許されたものなり。

入學志願者及許可者前年比較表

科名	志願者	許可者	本年の志願者	許可者
日本畫科	四六	二七	四五	二六
西洋畫科	一〇六	三六	八七	三五
彫刻科(塑)	九	七	八	七
同(木)	三	三	三	一
同(牙)	一	四	一	一
圖案科(一部)	四二	一四	三二	一〇
同(二部)	一一	六	八	四
金工科	六	四	五	五
鑄造科	五	四	五	五
漆工科	六	五	五	五
製版科	一四	七	一四	四
同選科	一	一	一	九
臨時寫真科	三三	一三	二〇	七
師範科	五七	一九	六四	二〇
計	三三八	一四九	二九七	一三四

○研究生入學 今回入學の諸氏左の如し。

四月一日 日本畫科 鴻巣 善藏

東京美術學校近事〔一五―三。T・五・六・三〇〕

○兩氏へ賞賜 大正四年に於て開設の臨時博覽會〔サンフランシスコ〕（桑港博）に關

し、盡力尠からざる廉を以て、學校長正木直彦氏へは金杯一個を、教授久米桂一郎氏へは銀杯一組を賜はりたり。

○職員近況 助教授石井吉次郎氏は本郷區駒込林町二百番地に轉居せらる。

○講習會の開設 本年秋季の文展開期中を機とし、十一月六日より同月十八日まで、本校内に於て圖書講習會を開設すべきこととなり、六月七日文部省告示第九十二號を以て、其旨發布せられたり。

講習員の資格は、師範學校、中學校、高等女學校及甲種程度の實業學校當該科目（圖書科）擔任教員にして、定員は各府縣三人宛なり。その地方長官の選定書は十月二十日迄に文部省普通學務局に差出すべき規定にして、講師諸氏及科目は左の如し。

西洋畫に就きて（六時）

東京美術學校教授 黒田 清輝

建築美に就きて

同 古宇田 實

東洋繪畫史大要（十時）

同 大村 西崖

普通教育の圖書科に就きて（八時）

同 白濱 徹

工藝圖案に就きて（十時）

同 島田 佳矣

日本畫に就きて（六時）

同 川合芳三郎

東京美術學校近事〔一五―四。T・五・九・一〇〕

○教授諸氏の陞等 去る六月十六日付を以て本校教授白山福松、同寺崎廣業、同古宇田實の三氏は高等官三等に、教授鎌田彌壽治、同岡田秀の兩氏は高等官五等に孰れも陞敘せられ、又七月十九日付を以て、教授大村西崖、同白濱徹、同白井保次郎、同島田佳矣の四氏は、高等官三等に、教授櫻岡三四郎氏は高等官四等に、何れも陞敘せられたり。

○敘位 教授白山福松、同寺崎廣業、同古宇田實の三氏は各從五位に、教授鎌田彌壽治、同岡田秀の兩氏は各從六位に、何れも七月二十日を以て昇敘せらる。

○長原教授の敘勲 教授長原孝太郎氏は、去る六月二十一日付を以て、勲七等に昇敘せらる。

○教員檢定委員 本校職員中小島憲之、下田次郎、小林萬吾、岡田起作の四氏は、七月三日付を以て、文部省教員檢定委員會臨時委員仰付けられたり。

○水泳師範の依囑 本年夏季に於ける水泳師範は、去る六月三十日付を以て、藤芳太直氏に囑託せられたり。

○職員諸氏の近況 教授海野美盛氏は、七月三日より一週間京阪地方へ旅行せらる。△雇助手野口六三氏は、夏季休業中、横須賀市公郷二千四百四十八番地へ歸省せらる。△教授福井信之進氏は、夏季

休業中關西地方へ旅行せらる。△雇助手三浦柳三郎氏も、夏季休業中、神奈川縣茅ヶ崎に滞在せらる。△教授岡田秀氏は、東京女子高等師範學校の命に依り、七月十一、十二の兩日神奈川縣下へ出張せらる。△教授島田佳矣氏は、沖繩縣知事の招聘に依り、圖案講習會講師として、七月十一日より八月十日頃迄沖繩縣へ出張せらる。△雇助手鈴木宮吉氏は、七月十三日より八月中、伊豆國田方郡西豆村に歸省せられたり。△助教教授石田英一氏は、先頃下谷區上根岸町八十二へ轉居せらる。△助教教授千頭庸哉氏は、先般本郷區駒込林町百五十二へ轉居さる。△學校長正木直彦氏は、文部省の用務にて、七月三日より四日間京都へ出張せらる。△教授高村光雲氏は、古社寺保存會の用務に依り、七月十二日より四日間奈良縣下へ出張せらる。

○生徒卒業 本年三月病氣のため、卒業試験を延期したる、本校日本畫科生徒藤直巳氏は、其後病氣全癒し、卒業製作を完了したるを以て、七月二十二日同科卒業證書を授與せられたり。

東京美術學校近事〔一五―五。T・五・一〇・二八〕

○竹内教授の陞等 教授竹内久一氏は、七月廿九日付を以て勲四等に昇叙し、瑞寶章を授けらる。

○小場助教の退官 助教小場恒吉氏は八月十六日依願本官を免ぜられたり。

○文展審査委員の任命 教授黒田清輝、同高村光雲、同岡田三郎助、同和田英作、同寺崎廣業、同白井保次郎、同小堀軻音、同川合

芳三郎、同藤島武二の諸氏は、何れも八月四日付を以て、美術審査委員會委員（第十回文展審査委員）を命ぜられたり。

○教授諸氏の敘位 教授白濱徹、同白井保次郎、同島田佳矣、同大村西崖の諸氏は各從五位に、同櫻岡三四郎氏は正六位に、孰れも八月二十一日を以て昇叙せらる。

○農展審査委員の囑託 學校長正木直彦、教授高村光雲、同岡田三郎助、同海野美盛、同島田佳矣の諸氏は、何れも九月四日付を以て、農商務省第四回圖案及應用作品展覽會審査委員を囑託せらる。

○職員諸氏の近況 囑託畑正吉氏は、七月十八日より約三週間富山縣下へ旅行せらる。囑託香取秀治郎氏は、七月十八日より凡二週間、京都大阪へ旅行せらる。△教授鎌田彌壽治氏は、七月十九日より同月三十一日迄徳島縣へ歸省せらる。△教授鹿島英二氏は、山梨

縣南都留郡谷村織物圖案組合の依託に依り、懸賞圖案審員のため、七月十九日出發同地に赴かれ、歸路富士登山せられしといふ。△八卷〔於菟三〕助手は七月十九日より二週間、靜岡縣富士郡傳法村へ赴かる。△教授白濱徹氏は、七月二十日より三週間兵庫縣へ赴き、

それより上海へ航せられしと。△囑託關係之助氏は、七月二十九日より二週間、京都奈良伊勢地方へ旅行さる。△教授大村西崖氏は、

八月二日より二週間京都市へ旅行せらる。△教授和田英作氏は暑中休暇中靜岡縣三保に赴かる。△教授久米桂一郎氏は、八月十日より

三週間、上州四方温泉へ滞在せらる。△助手三浦柳三郎氏は、八月十一日より伊豆國長岡温泉へ赴き滞在せらる。△教授寺崎廣業氏は、七月末より信州上林温泉の別邸に赴かれ、文展出品其他揮毫せ

られしと。△教授岡田秀氏は、八月十三日より北陸及羽前羽後の海

岸に赴き寫生に従事されしと。△助教堀井政吉氏は、八月下旬茨城縣地方へ旅行せらる。△教授白山福松氏は、九月上旬修善寺温泉へ赴かる。△教授福井信之進氏は、暑中休暇中大阪府下へ赴き岡町萩の寺東光院に滞在せらる。教授島田佳矣氏は、九月上旬山形縣へ旅行せらる。△教授櫻岡三四郎氏は九月三日頃より病氣に罹り發熱甚きたため、芝愛宕町二丁目東京病院へ入院せらる。△助教千頭庸哉氏は、此程府下瀧の川町上中里一四八へ轉居さる。

東京美術學校近事 (一五—六。T・五・十二・二八)

○久米教授外三氏の敍勲 教授久米桂一郎同白濱徹、同島田佳矣、同白井保次郎の四氏は、九月二十九日付を以て、何れも勲五等に敍せられ、瑞寶章を授けらる。

○竹内教授の特旨敍位 教授竹内久一氏は去る九月二十四日、特旨を以て位一級を進め、從四位に敍せられたり。

○教授の擔任 彫刻科木彫部牙彫部の授業は、從來竹内(久一)教授の擔任する所なりしが、嚮に同教授卒去せられたるにつき、十月三日付を以て、今授業は高村(光雲)教授擔任を命ぜられたり。

○會計主任の更迭 本校會計主任高田松男氏は、十一月四日願に依りて本官を免ぜられ、其後任として、會計検査院書記足立芳五郎氏は本校書記に轉任し、會計主任を命ぜられたり。

○勤務演習召集 囑託瀧川鼎氏は、十一月五日より三週間勤務演習のために召集せられたり。

○調漆授業囑託 十月十三日本校漆工科調漆授業を、六角注多良氏

に囑託せらる。

○教授諸氏の出張 教授白濱徹氏は、學術研究のため、十月四日より十日間關西地方へ出張せらる。△教授川合芳三郎氏は、十月二十日學術實地指導のため、埼玉縣へ出張せらる。△教授和田英作氏は學術研究のため、十月三十日より一週間奈良縣へ出張せらる。△教授鹿島英二氏は十一月三日より十日間鹿島市へ出張せらる。△囑託香取秀治郎氏は、十月八日より十日間京都奈良へ旅行せらる。△教授結城貞松氏は十月十七日出發、正倉院御物を拜觀せらる。△助教小林萬吾氏は、文部省の用務にて十一月一日より一週間、岡山縣へ出張せらる。

○選科生の入學 本年募集したる本校選科生は、九月二十六日より三十日まで其入學試験を施行し、合格のものは十月四日の官報にてそれ〴〵編入することに定められたり。科名姓名左の如し。

日本畫選科第一年

柳 晴一 東京士 五十嵐吉三郎 東京士

圓木諄治郎 愛媛平

西洋畫選科第一年

陳 洪鈞 支那 劉 錦堂 臺灣

彫刻選科(木彫)第一年

弘田 伸身 高知士 池 龍雄 鹿兒島士

杉本 三郎 東京平

金工選科第一年

小澤小一郎 新潟平 藤本 正義 東京平

大橋 芳雄 東京平

漆工選科第一年

本多 三郎 愛媛平 寺村 共喜 高知平

宮井茂太郎 香川平

○本校設置記念日 十月四日は本校設置記念日なるを以て、例によりて午前九時より、職員、卒業生來賓、生徒一同大講堂に參集し、正木學校長の記念日に關する演説あり。次に猶正木學校長は、雇西村綾雄氏が、本年を以て勤續滿二十五年となれるを以て、同氏の功勞を表彰する旨を述べて目錄を授與せられ、それより餘興に移りたり。餘興は、第一、仕舞(山本鹿洲氏、「地」久米桂一氏)第二、狂言(靱猿、惡太郎)第三、筑前琵琶ありて、正午頃散會したり。

○各科生徒の修學旅行 每年秋季に行はるる本校各科生徒の修學旅行は、例によりて十月廿五日より三日間を以て行はれたり。即ち日本畫科は妙義山より伊香保榛名へ、西洋畫科は新潟縣赤倉溫泉へ、彫刻科は歟澤を経て身延山に至り富士川下りをなし、圖案科は日光中禪寺より湯本へ、金工科は箱根芦の湯を経て熱海へ、鑄造科は湯河原より箱根へ、漆工科は鹽原より那須溫泉へ、製版科は伊香保より榛名へ、寫真科は箱根底倉より芦の湯日金山を経て伊豆山溫泉へ、師範科は潮來より香取神社を拜して銚子犬吠岬へ、工業圖案科は御殿場より乙女峠の嶮を踏破して箱根溫泉へ赴きたり。

○十一月三日の奉賀式 十一月三日は立太子の禮を行はせらるゝにつき、當日午前十時より式を行ひ、正木〔直彦〕學校長より立太子禮に關して謹話ありたり。又同日各學校生徒は宮城二重橋外に於て、殿下を奉送することゝなりたるを以て、本校職員生徒も二回に分れ、朝は午前六時迄に、午後は一時まで、二重橋外に於ける指

定の場所につきて、奉迎奉送せり。

○文部省の圖畫講習會 同會は十一月二日より同月十七日まで、本校大講堂を會場として開會せられたるが、講習員は計八十六人、十七日を以て終了式を行ひそれより修了證書を授與せられたり。講習科目、講師、講習員左の如し。

講習科目及講師

西洋畫につきて (六時)	教授 黒田 清輝
建築美につきて (十二時)	同 古宇田 實
東洋繪畫史大要 (十時)	同 大村 西崖
普通教育の圖畫科につきて (八時)	同 白濱 徵
工藝圖案につきて (十時)	同 島田 佳矣
日本畫につきて (六時)	同 川合芳三郎

講習員職氏名(○は本校出身者)

北海道廳立小樽中學校教諭	○小林 金治
北海道札幌師範學校教諭	○菅原 次郎
東京府青山師範學校教諭	赤津 隆助
同 府立第三高等女學校教諭	○今井伴次郎
同 府私立名教中學校教員	長谷川曾一
同 府女子師範學校教諭	○谷 鎌太郎
同 府立第四中學校教諭	馬場 三郎
同 府私立帝國女子專門學校附屬	中田 久良
同 府立日本高等女學校教員	○井上 良慶
同 府豊島師範學校教諭	園部 こと
同 府私立佐藤高等女學校教諭	○高澤 雅雄
同 京都府立第五中學校教諭	上甲 二郎

- 京都府京都市立高等女學校教諭 ○倉田 徳松
- 大阪府池田師範學校教諭 ○高橋 貞治
- 同 府立清水谷高等女學校教諭 ○佐藤健四郎
- 神奈川縣師範學校教諭 ○西松 團三
- 同 縣立小田原中學校教諭 ○三橋 信吉
- 兵庫縣明石女子師範學校教諭 伸上 義雄
- 長崎縣師範學校教諭 堀越喜三郎
- 新潟縣立小千谷中學校教諭 ○大越 直
- 同 縣立糸魚川中學校教諭 ○藍野 精一
- 同 縣高田師範學校教諭 ○品田七太郎
- 埼玉縣師範學校教諭 加藤 邦造
- 群馬縣立高等女學校教諭 ○小塚義一郎
- 同 縣女子師範學校教諭 ○幕谷 四郎
- 同 縣師範學校教諭 笹森惠之助
- 茨城縣立水海道中學校教諭 山崎時次郎
- 同 縣立太田中學校教諭 野村 邦巳
- 同 縣立水戸高等女學校教諭兼
茨城縣女子師範學校教諭 飯田 芳文
- 同 縣立土浦中學校教諭 ○石田 益敏
- 奈良縣私立天理中學校教諭 ○木南三千三
- 同 縣師範學校教諭 ○塚田 清吉
- 三重縣立第一中學校教諭 ○我妻 榮吉
- 愛知縣一宮町立高等女學校教諭 長尾 庸明
- 同 縣私立愛知淑徳女學校教員 川島 ヨウ
- 靜岡師範學校教諭兼高等女學校教諭 ○渡邊忠三郎
- 山梨縣立高等女學校教諭 荻谷 伴雅
- 岐阜縣女子師範學校教諭 ○三澤 佐助
- 長野縣師範學校教諭 長野縣師範學校教諭
- 同 縣松本女子師範學校教諭
- 同 縣立野澤中學校教諭
- 同 縣立大町中學校教諭心得
- 宮城縣立角田中學校教諭
- 岩手縣立福岡中學校教諭
- 同 縣立工業學校教諭
- 山形縣立山形中學校教諭
- 同 縣立米澤高等女學校教諭
- 福井縣立福井中學校教諭
- 石川縣立第一高等女學校教諭
- 鳥取縣師範學校教諭
- 同 縣立倉吉中學校助教諭心得
- 同 縣立米子中學校教諭
- 同 縣立鳥取中學校教諭
- 島根縣立濱田高等女學校教諭
- 同 縣師範學校教諭
- 同 縣立子師範學校教諭
- 岡山縣私立就實高等女學校教諭
- 廣島縣立吳中學校教諭
- 同 縣立福山高等女學校教諭
- 山口縣立徳山中學校教諭
- 徳島縣立工業學校教諭
- 香川縣立丸龜高等女學校教諭
- 同 縣立高松高等女學校教諭
- 愛媛縣立今治中學校教諭
- 芳川 廷輔
- 藤岡龜三郎
- 小澤 秋成
- 百瀬深次郎
- 江間 常吉
- 葛 揆一郎
- 中井彌五郎
- 桃井 義一
- 山本虎之助
- 吉田 衡
- 熊野銓太郎
- 藤井禎三郎
- 中井 金三
- 岡村 吉樹
- 久米 福衛
- 佐藤七之助
- 池田 弘
- 板垣 繁樹
- 原 増次
- 松永 隆教
- 長谷川徳巖
- 寛 敦良
- 寺崎 伯孝
- 森 勝治郎
- 巖本 定次
- 郷原藤一郎

高知縣立第三中學校助教諭心得	野島 覺
同 縣立第二中學校教諭	田内 千秋
同 縣師範學校教諭	○山本 淳
福岡縣立門司高等女學校教諭	竹本 好郎
同 縣立小倉高等女學校教諭	○荒川 潔
同 縣立八女中學校教諭	○安藤 義茂
同 縣立久留米高等女學校助教諭心得	中島百合枝
大分縣師範學校教諭	首藤 積
熊本縣立熊本中學校教諭	○甲斐 英雄
同 縣立天草中學校教諭心得	○高木 巖
同 縣立高等女學校教諭	○美作 武雄
同 鹿兒島縣師範學校教諭	○五島 健三
同 縣鹿兒島市立商業學校教諭	○田中 國廣
同 縣同 市立興業學校教諭	河本 武夫
朝鮮京城女子高等普通學校	○柴田 勝次
同 公立高等女學校教諭	○丸野 豐
福島縣立工業學校教諭	星 武四郎
奈良女子高等師範學校助教諭	○多賀谷健吉
東京美術學校助教諭	○波根 義三
石川縣立工業學校教諭	○山本 昌
石川縣立金澤第一中學校教諭	○足立 啓
山形縣立鶴岡高等女學校教諭	○相馬 正己

関連事項

① 教務・事務分掌規程改正

大正五年一月、本校の教務・事務分掌規程が改正された。

東京美術學校教務分掌規程（大正五年一月改正）

第一條 本校教務ヲ處理スルタメ各科ニ主任、理事及教室擔任ヲ置ク

第二條 主任ハ左ノ事項ヲ掌ル

- 一 其科生徒ノ教育ノ大綱ヲ掌ルコト
- 一 其科職員ノ取締ニ關スルコト
- 一 學校長ノ諮詢ニ應ジ又ハ意見ヲ學校長ニ開陳スルコト

第三條 理事ハ左ノ事項ヲ掌ル

- 一 其科生徒ノ風紀ヲ維持シ其取締ニ任スルコト
- 一 其科ノ特待生及生徒ノ賞罰ニ關スルコト
- 一 其科ニ屬スル施設請求整理ヲナスコト
- 一 其科ニ於ケル教務一切ヲ管理スルコト
- 一 其科職員ノ勤務上ニ關スルコト

第四條 主任及理事ハ生徒監ト協議シ其職務ヲ行フベキモノトス

第五條 教室擔任ハ主任及理事ノ命ヲ承ケ關係教官ト協議シ左ノ

事項ヲ掌ル

- 一 教室内ノ秩序ヲ正スコト
- 一 生徒ノ品行勤惰ヲ監督シ若シ怠惰不行狀ノモノアルトキハ之ヲ訓誡スルコト
- 一 命令告諭等ノ實行ヲ務ムルコト